

テモテへの前の書

一 我らの救主なる神と我らの希望なるキリスト・イエスとの命によりてキリスト・イエスとの使徒となれるパウロ、二書を信仰に由りて我が眞實の子たるテモテに贈る。願くは父なる神および我らの主

キリスト・イエスより賜ふ恩恵と憐憫と平安と、汝に在らんことを。

第一章

一 我マケドニヤに往きしとき汝に勧めし如く、汝なほエペソに留り、或る人々に命じて異なる教を傳ふることをなく、二昔話と窮りなき系圖とに心を寄する事なからしめよ。此等のことは信仰に基ける神の經綸の助とならず、反つて議論を生ずるなり。三 命令の目的は、清き心と善き良心と偽りなき信仰とより出づる愛にあり。四 或る人々これらの事より外れて虚しき物語にうつり、五 律法の教師たらんと欲して、反つて其の言ふ所その確證する所を自ら悟らず。六 律法は道理に循ひて之を用ひば善き者なるを我らは知る。七 律法を用ふる者は律法の、正しき人の爲にあらずして、不法のもの、服従せぬもの、敬虔ならぬもの、罪あるもの、潔からぬもの、妄なるもの、父を撃つもの、母を撃つもの、人を殺す者、八 淫行のもの、男色を行ふもの、人を誘拐すもの、偽る者、九 いつはり誓ふ者の爲、そのほか健全なる教に逆ふ凡ての事のために設けられたるを知るべし。一〇 これは我に委ね給ひし幸福なる神の榮光の福音に循へるなり。

イ路一・四七を見よ	ロ(西一・二七)	ハ多一・三	ニ 哥後一・二を見よ	ホ 提後一・二を見よ	ヘ 徒一六・二を見よ	ト 提後一・二 約三三	チ 羅一五・二六を見よ	リ 徒一八・一九を見よ	又 提前六・三(羅一六)	・二七 哥後一・一・四	加一・六(七)	ル 提前四・七 提後四	ホ 提後一・二(一六)	ヲ 多三・九	カ 提前六・四 提後二	ヨ 提前一・一八	タ 提後二・二二	レ 彼前三・一六、二二	・一七 哥後一・一・四	加一・六(七)	ル 提前四・七 提後四	・四 多一・一四	ヲ 多三・九	カ 提前六・四 提後二	ヨ 提前一・一八	タ 提後二・二二	レ 彼前三・一六、二二	提前一・一八 來一	三・一八(提前三)	九 提後一・三	ソ 提後一・五	ツ(多一・一〇)	ネ(路二・四六)	ナ(雅三・一)	ラ 羅七・一六を見よ	ム(加五・二三)	ウ 多一・六、一〇	井 彼前四・一八 猶一	ノ 提前四・七、六・二	〇 提後二・一六	來一・二・一六	オ 哥前六・九を見よ	ク 利一八・二二	ヤ 出二二・一六	マ 歌二一・八、二七、	ケ(太五・三三、三三)	ク(太五・三三、三三)	一六	フ 提後四・三多一・九、	二・一(提前四・六)	六・三 提後一・一三	多一・一四、二・二	コ 加二・七を見よ	一・三	エ(提前六・一五)	チ(哥後四・四)
-----------	----------	-------	------------	------------	------------	-------------	-------------	-------------	--------------	-------------	---------	-------------	-------------	--------	-------------	----------	----------	-------------	-------------	---------	-------------	----------	--------	-------------	----------	----------	-------------	-----------	-----------	---------	---------	----------	----------	---------	------------	----------	-----------	-------------	-------------	----------	---------	------------	----------	----------	-------------	-------------	-------------	----	--------------	------------	------------	-----------	-----------	-----	-----------	----------

ア 哥後一・二三 (太六・三三可一〇) と提前一・一五を見よ
 サ 提前一・九を見よ (三〇) 提前一・三三 及び 約
 キ 提前一・四を見よ シ 詩三七・九、一一 箴
 ニ 提前四・八、六・三、 一九・二三、二二・
 五、六 提後三・五 四 太六・三三を見よ
 ヲ (西二・二三) 提前五・五 ス 提前五・五
 ミ 太一・二三二を見よ エ 提前六・六
 (一) 提前一・一五を見よ (二) 提前一・一四
 (三) 提前一・一四 (四) 提前二・一四
 (五) 提前二・一四 (六) 提前二・一四
 (七) 提前二・一四 (八) 提前二・一四
 (九) 提前二・一四 (一〇) 提前二・一四
 (一一) 提前二・一四 (一二) 提前二・一四
 (一三) 提前二・一四 (一四) 提前二・一四
 (一五) 提前二・一四 (一六) 提前二・一四
 (一七) 提前二・一四 (一八) 提前二・一四
 (一九) 提前二・一四 (二〇) 提前二・一四
 (二一) 提前二・一四 (二二) 提前二・一四
 (二三) 提前二・一四 (二四) 提前二・一四
 (二五) 提前二・一四 (二六) 提前二・一四
 (二七) 提前二・一四 (二八) 提前二・一四
 (二九) 提前二・一四 (三〇) 提前二・一四
 (三一) 提前二・一四 (三二) 提前二・一四
 (三三) 提前二・一四 (三四) 提前二・一四
 (三五) 提前二・一四 (三六) 提前二・一四
 (三七) 提前二・一四 (三八) 提前二・一四
 (三九) 提前二・一四 (四〇) 提前二・一四
 (四一) 提前二・一四 (四二) 提前二・一四
 (四三) 提前二・一四 (四四) 提前二・一四
 (四五) 提前二・一四 (四六) 提前二・一四
 (四七) 提前二・一四 (四八) 提前二・一四
 (四九) 提前二・一四 (五〇) 提前二・一四
 (五一) 提前二・一四 (五二) 提前二・一四
 (五三) 提前二・一四 (五四) 提前二・一四
 (五五) 提前二・一四 (五六) 提前二・一四
 (五七) 提前二・一四 (五八) 提前二・一四
 (五九) 提前二・一四 (六〇) 提前二・一四
 (六一) 提前二・一四 (六二) 提前二・一四
 (六三) 提前二・一四 (六四) 提前二・一四
 (六五) 提前二・一四 (六六) 提前二・一四
 (六七) 提前二・一四 (六八) 提前二・一四
 (六九) 提前二・一四 (七〇) 提前二・一四
 (七一) 提前二・一四 (七二) 提前二・一四
 (七三) 提前二・一四 (七四) 提前二・一四
 (七五) 提前二・一四 (七六) 提前二・一四
 (七七) 提前二・一四 (七八) 提前二・一四
 (七九) 提前二・一四 (八〇) 提前二・一四
 (八一) 提前二・一四 (八二) 提前二・一四
 (八三) 提前二・一四 (八四) 提前二・一四
 (八五) 提前二・一四 (八六) 提前二・一四
 (八七) 提前二・一四 (八八) 提前二・一四
 (八九) 提前二・一四 (九〇) 提前二・一四
 (九一) 提前二・一四 (九二) 提前二・一四
 (九三) 提前二・一四 (九四) 提前二・一四
 (九五) 提前二・一四 (九六) 提前二・一四
 (九七) 提前二・一四 (九八) 提前二・一四
 (九九) 提前二・一四 (一〇〇) 提前二・一四

八七 の良き役者たるべし。セされど妄なる談と老いたる女の昔話とを捨てよ、また自ら敬虔を修行せよ。ハ體の
 九 修行も聊かは益あれど、敬虔は今の生命と後の生命との約束を保ちて凡の事に益あり。九これ信すべく、正しく
 一〇 受くべき言なり。一〇我らは之がために勞し、かつ苦心す、そは我ら凡ての人、殊に信する者の救主なる活ける神
 に望を置けばなり。

二 汝これらの事を命じ、かつ教へよ。三なんぢ年若きをもて人に輕んぜらるな、反つて言にも、行狀にも、
 三 愛にも、信仰にも、潔にも、信者の模範となれ。三わが到るまで、讀むこと勸むること教ふる事に心を用ひよ。
 二四 一四なんぢ長老たちの按手を受け、預言によりて賜はりたる賜物を等閑にすな。一五なんぢ心を傾けて此等のことを
 二六 専ら務めよ。汝の進歩の明かならん爲なり。一六なんぢ己とおのれの教とを慎みて此等のことに怠るな、斯くなし
 て己と聽く者とを救ふべし。

第五章

一 老人を譴責すな、反つて之を父のごとく勸め、若き人を兄弟の如くに、二老いたる女を母の如く
 四三 に勧め、若き女を姉妹の如くに全き貞潔をもて勧めよ。三 寡婦のうちの眞の寡婦を敬へ。四 されど
 二一 寡婦に子もしくは孫あらば、彼ら先づ己の家に孝を行ひて親に恩を報ゆることを學ぶべし。これ神の御意にかな
 六五 ふ事なり。五 眞の寡婦にして獨残りたる者は望を神におきて、夜も晝も絶えず願と祈とを爲す。六 されど佚樂を
 八七 放恣にする寡婦は生けりと雖も死にたる者なり。七 これらの事を命じて彼らに責むべき所なからしめよ。八 人も

九 其の親族、殊に己が家族を顧みずば、信仰を棄てたる者にて不信者よりも更に悪しきなり。九六十歳以下の寡婦は寡婦の籍に記すべからず、記すべきは一人の夫の妻たりし者にして、一〇善き業の聲聞あり、或は子女をそだて、或は旅人を宿し、或は聖徒の足を洗ひ、或は悩める者を助くる等、もろもろの善き業に従ひし者たるべし。二 若き寡婦は籍に記すな、彼らキリストに背きて心亂るる時は嫁ぐことを欲し、三 初の誓約を棄つるに因りて批難を受くべければなり。三 彼等はまた懶惰に流れて家々を遊びめぐる、常に懶惰なるのみならず、言多くして徒事にたづさはり、言ふまじき事を言ふ。四 されば若き寡婦は嫁ぎて子を生子、家を理めて敵に少しにても諍るべき機を與へざらんことを我は欲す。五 彼らの中には既に迷ひてサタンに従ひたる者あり。六 信者たる女もし其の家に寡婦あらば自ら之を助けて教會を煩はすな。これ眞の寡婦を教會の助けん爲なり。

一七 善く治むる長老、殊に言と教とをもて勞する長老を一層尊ぶべき者とせよ。一八 聖書に「穀物を碾す牛に口籠を繫ぐべからず」また「労働人のその價を得るは相應しきなり」と云へばなり。一九 長老に對する訴訟は二三人の證人なくば受くべからず。二〇 罪を犯せる者をば衆の前にて責めよ、これ他の人をも懼れしめんためなり。二一 われ神とキリスト・イエスと選ばれたる御使たちとの前にて嚴かに汝に命ず、何事をも偏り行はず、偏頗なく此等のことを守れ、三 輕々しく人に手を按くな、人の罪に與るな、自ら守りて潔くせよ。三三 今よりのち水のみを飲まず、胃のため、又しばしば病に罹る故に、少しく葡萄酒を用ひよ。二四 或人の罪は明かにして先だちて審判に

イ 提後二・一二 多一
 ・一六 彼後二・一
 猶四 (提後三・五)
 歌二・一三
 口 (提前五・二六)
 ハ (提前三・二)
 二徒九・三六 提前六
 一八 多二・七、
 三・八 彼前二・二二
 三・八 彼前二・二二
 又多一・一一
 ル 野前七・九 (提前四
 ・三)
 テ (多二・五)
 ワ (提前六・二)
 カ 提前二・八
 ヨ (提前一・二〇)
 タ 太四・一〇を見よ
 ラ 中二五・四 哥前九
 ・九
 ム 路一〇・七を見よ
 ウ 提前五・一七を見よ
 ヴ 太一八・一六を見よ
 ノ 弗五・一一 提後四
 (提前三・一〇)
 ・二 (加二・二四)
 マ 弗五・一一 (提前三
 ・二一七)
 オ (對後七・一一)
 ク 提前六・二三 提後
 ケ (提前三・八)
 (路九・二六)
 ヤ 提前四・一四を見よ
 (提前三・一〇)

フ(黙一四・一三) 二八 門一六 エ後二・一四 一五(二二) 四、二八・二〇路 チ(雅五・一九) 四・七 哥前九・二 ソ哥後九・一三を見よ
 コ(箴一〇・九) サ(提前四・二二) (徒一八・二五) ス腓四・二二を見よ 一二・二一 提前六 リ提後三・一七 五、二六 及び腓一
 エ多二・九 彼前二 キ提前一・三を見よ ヒ提後三・八 (多一・一) イ提前四・八 二七(雅五・一) 又(提後二・二二) 三〇を見よ 猶三
 一八(弗六・五) エ提前一・一〇を見よ 一五 口伯一・二二 傳五・ホ(提前三・七) ル提前一・一四を見よ ヨ腓三・一二を見よ
 ナ(多二・五 彼後二・二) メ多一・一 モ(多一・一一 彼後二・二) 一五 へ提前六・九、三・三 七提後三・一〇 夕西三・一五
 (二) ミ提前三・六を見よ (三) ハ箴三〇・八 へ見よ(西三・五) ヲ提前一・一八 夕提後二・二(提前四
 ア徒一・一五 加三・シ提前一・四を見よ セ六一・一〇(路二・二) 二箴一五・二七、二三 ト(羅一・一六以下) カ提前一・一八 提後 一・二四)

二五 往き、或人の罪は後にしたがふ。二五 斯のごとく善き業も明かなり、然らざる者も遂には隠るること能はず。

一 おほよそ鞭の下にありて奴隷たる者は、おのれの主人を全く尊ぶべき者とすべし。これ神の名と

二 教との譏られざらん爲なり。二 信者たる主人を有てる者は、その兄弟なるに因りて之を輕んぜず、

三 汝これらの事を教へ、かつ勧めよ。三もし異なる教を傳へて健全なる言、すなはち我らの主イエス・キリス

四 トの言と敬虔にかなふ教とを肯はぬ者あらば、四その人は傲慢にして何を知らず、ただ議論と言争とにのみ耽

五 るなり、之によりて嫉妬・争鬭・誹謗・悪しき念おこり、五また心腐りて眞理をはなれ、敬虔を利益の道とおも

六 ぶ者の争論おこるなり。六然れど足ることを知りて敬虔を守る者は、大なる利益を得るなり。七我らは何を携

七 へて世に來らず、また何をも携へて世を去ること能はざればなり。八ただ衣食あらば足れりとせん。九然れど

一〇 富まんと欲する者は、誘惑と網また人を滅亡と沈淪とに溺す愚にして害ある各様の慾に陥るなり。一〇それ金を

愛するは諸般の悪しき事の根なり、或る人々これを慕ひて信仰より迷ひ、さまざまの痛をもて自ら己を刺しとほ

せり。

二神の人よ、なんぢは此等のことを避けて、義と敬虔と信仰と愛と忍耐と柔和とを追求め、三信仰の善き戦闘

をたたかへ、永遠の生命をとらへよ。汝これが爲に召を蒙り、また多くの證人の前にて善き言明をなせり。二三

二神の人よ、なんぢは此等のことを避けて、義と敬虔と信仰と愛と忍耐と柔和とを追求め、三信仰の善き戦闘

をたたかへ、永遠の生命をとらへよ。汝これが爲に召を蒙り、また多くの證人の前にて善き言明をなせり。二三

われ凡ての物を生じたまふ神のまへ、及びポンテオ・ピラトに向ひて善き言明をなし給ひしキリスト・イエスの前にて汝に命ず。一四 汝われらの主イエス・キリストの現れたまふ時まで、汚點なく、責むべき所なく、誠命を守れ。一五 時いたらば幸福なる唯一の君主、もろもろの王の王、もろもろの主の主、これを顯し給はん。一六 主は唯ひとり不死を保ち、近づきがたき光に住み、人の未だ見ず、また見ること能はぬ者なり、願くは尊貴と限りなき権力と彼にあらんことを、アアメン。

一七 汝この世の富める者に命ぜよ。高ぶりたる思をもたず、定めなき富を恃ずして、唯われらを樂ませんとて萬の物を豊に賜ふ神に依頼み、一八 善をおこなひ、善き業に富み、惜みなく施し、分け與ふることを喜び、一九 斯て己のために善き基を蓄へ、未來の備をなして眞の生命を捉ふることを爲よと。

二〇 テモテよ、なんぢ委ねられたる事を守り、妄なる虚しき物語また偽りて知識と稱ふる反對論を避けよ。二一 或る人々この知識を装ひて信仰より外れたり。願くは御恵、なんぢと偕に在らんことを。

テモテへの前の書 をはり

イ約一八・三七	四、一九・一六	又約一・一八を見よ	二〇 提前六・九	ツ太六・二〇を見よ
(太二七・二)	(申一〇・一七)	ル(提前一・一七)	カ徒一四・一七	ホ提前六・一二
ロ撒後二・八を見よ	ト詩二三六・三 黙一	ヲ提後四・一〇 多二	ヨ彼後一・一一	ナ提前一・二
ハ提前二・六を見よ	七・一四	・二二 太二二・三二	タ提前四・一〇	ラ提後一・二二、一四
ニ(提前一・一一)	チ提前一・二七	を見よ	レ提前五・一〇を見よ	ム提前一・九を見よ
ホ提前一・二七	リ詩一〇四・二 約壹	ワ詩六二・一〇 羅一	ソ羅一二・八 (弗四・	ウ提前一・九を見よ
ヘ黙一・五、一七・一	一・五(雅一・一七)	一・二〇(路二二・	二八)	井西四・一八を見よ

一・九 或は「殺す」と譯す。

二・八 或は「疑はず」と譯す。